

適期の防除と実肥施用で品質・収量確保!

1. 気象および大麦の生育状況

2月～3月中旬にかけて気温がかなり低温に推移し、降雨や降雪により降水量が多くなったことから、生育は停滞しました。一方、3月下旬は高温となり生育の遅れは回復傾向にあり、**出穂期は平年並～やや遅くなる**ことが見込まれます。

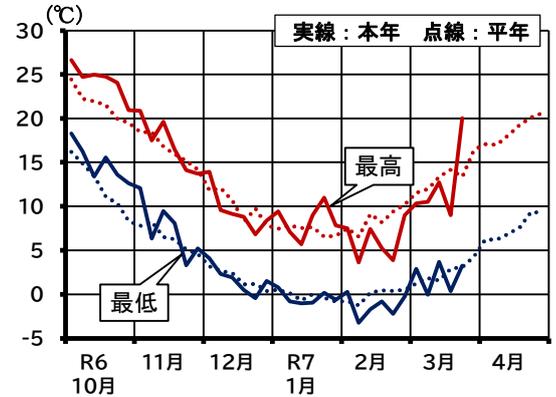


図 麦作期間の気温の経過

2. 品質・収量確保に向けた管理

(1) 赤かび病防除

大麦は赤かび病に弱いため、**必ず2回防除を行いましょ**う。**1回目は開花始め、2回目は1回目の1週間後**です。気温の経過により、出穂期～開花期の日数は変化しますが、以下の目安を参考に防除の準備を進めましょ

【防除適期の目安】

| 播種時期 | 出穂期の予想 | 1回目の防除 (開花始め) | 2回目の防除 (1回目の1週間後) |
|-------|---------|------------------|----------------------|
| 10月中旬 | 4月10日前後 | 4月15日～4月20日 | 4月22日～4月27日 |
| 10月下旬 | 4月17日前後 | 4月22日～4月27日 | 4月29日～5月4日 |

※今後の気象状況によって、出穂時期、開花時期は前後することがあります。

以下を参考にほ場ごとに防除適期を判断しましょ

(参考)大麦の生育予測

| 出穂約2週間前 | 出穂約1週間前 | 出穂期 |
|---------|---------|---|
| | | <p>40～50%の茎から穂先が出ている状態</p> <p>開花始め</p> <p>出穂5～10日後 (気温によって大きく変動)</p> |

(2)実肥施用

実肥は収量増加やタンパク質含有率向上に効果があります。特に、麦茶用は高タンパクの大麦が求められます。ただし、施用量や施用時期、生育状況によっては倒伏や遅れ穂の発生を助長しますので、ほ場ごとに判断して施用しましょう。

【施用量(窒素成分)および施用時期の目安】

| 施肥体系・生育状況 | 施用量 | 施用時期 |
|------------------------------------|-----------|---------------------|
| 分施体系 | 4kg/10a | 出穂 10 日後 |
| 実肥成分を含まない一発肥料 | | |
| 実肥成分を含む一発肥料 (大麦専用一発肥料 MFS 等) | 1～2kg/10a | |
| 特に、莖数が多く、葉色が淡い場合 | 2kg/10a | 出穂1週間前～ 出穂 10 日後 |
| 特に、莖数が少なく、葉色が濃い場合 (播種時期が遅いほ場など) | | 施用しない |

(3)排水対策

2月、3月は降水量が平年より多くなっており、湿害が発生しているほ場が散見されています。今の時期は麦が大きく成長する時期にあたり、特に湿害が発生しやすい時期でもあります。

溝の崩れがないか、尻水戸からスムーズに排水されているか確認して、排水促進に努めましょう。

